

令和元年度第2回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：令和元年7月31日（水）9：30～10：30

場 所：帯広市役所10階 第2会議室

○出席者（10名）

- ・ 委 員：板倉委員、梅津委員、加納委員、塩田委員、末安委員、田沼委員、永田委員、丹羽委員、橋本委員、山中委員、山根委員 ※欠席者3名
- ・ 事 務 局：川端市民環境部長、小野市民環境部参事、小林環境都市推進課長、西島環境都市推進課長補佐、関井係長、佐々木主任、田中主任補、大野係員
- ・ 傍聴者等：報道関係者1名

○配布資料：座席表、委員名簿、次第、環境審議会委員報酬の振り込みについて（該当委員のみ配布）
第三期帯広市環境基本計画（資料1）、第三期帯広市環境基本計画の概要（資料2）

1 開会

2 議事

協議事項、第三期帯広市環境基本計画について
第三期帯広市環境基本計画について、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

【委 員】基本目標について、第二期環境基本計画では7項目あったものを、第三期環境基本計画では5項目に整理したことについて、どのように変わったのか詳しく説明をお願いします。

【事務局】基本目標については、環境基本条例の中の5つの施策の基本方針と照らし合わせ、ある程度柔軟性をもって様々な施策に取り組めるように5項目に整理しました。

【委 員】帯広市生物多様性地域戦略を兼ねるとしてはありますが、帯広市生物多様性地域戦略は、もう既に存在しているのですか。

【事務局】いいえ、現段階ではありません。平成20年に生物多様性基本法が施行されましたが、北海道内において生物多様性地域戦略を策定しているのは、北海道、札幌市、黒松内町、礼文町の4つです。今後、地球温暖化問題等の様々な問題に対応していくことは、生物多様性を保全していくということにもつながりますので、第三期帯広市環境基本計画が生物多様性地域戦略を兼ねることとします。

【委 員】別途作るのではなく、3月に第三期帯広市環境基本計画が完成した時点で、この生物多様性地域戦略が出来ているという考えで良いでしょうか。

【事務局】はい、その通りです。

【委 員】この生物多様性の考えは、近年になって出てきた新しい考え方であり、まだ理解されていない部分が多々あると思います。教育に関する記載がありますが、難しいところもあると思いますが、情報発信に努めていく必要があると思います。

【事務局】生物多様性という言葉は、認知度が非常に低いものだと思います。まずは言葉の認知度を上げていきたいと思います。

【委員】エネルギーについてですが、ボイラーなど、省エネ機器に切替えられてきており、二酸化炭素の削減につながっています。最近では、スマートリモコンといった、センサー付きのリモコンが出てきています。例えば、暖房に関して、室温が高い場合はセンサーが作動して自動的に暖房が止まるという働きをします。室温を感知して暖房を調整することで、冬だと20%程度のエネルギー使用量を削減できることがわかっており、結果として二酸化炭素の削減につながります。市では省エネ機器等の設置に対して補助金を交付していますが、このスマートリモコンの推進も一つの柱として設けていくべきだと思います。

【事務局】市の施策として、一般家庭における省エネということで新エネルギー導入促進補助金を交付しています。様々な機種の情報を集めながら、今何が効果的なのか、費用対効果も考え、実施していきたいと考えております。

【委員】第三期環境基本計画策定にあたって、第二期計画の成果と課題を、もう少し総括する必要がありますと思います。環境に対する漠然とした意識だけではなく、具体的に市民はどのような行動をしなくてはならないのか、事業者と行政はどのような役割なのかを明確にして、行動に結びつくような計画にする必要があると思います。

【事務局】第二期計画の検証については、平成29年度第2回目の環境審議会の中で、検証結果を報告させていただきました。第三期計画の策定に向けて、市民の環境に対する意識を調査するため、平成30年度に市民アンケートを実施しており、こうした結果を踏まえ、第三期計画の作成を進めております。

【委員】COOL CHOICE（クールチョイス）について、もう少し分かりやすく教えてください。

【事務局】COOL CHOICEは、環境省が進めている国民運動です。COOL CHOICEの意味合いは、地球温暖化防止に繋がる「賢い選択」で、何かを選択をする時に、将来の地球環境を考えて「選択」をしましょうという取り組みです。例えば、買い物や通勤の際に、一人ひとりが車で移動するのではなく、バスを利用することで燃料の使用量が抑えられ、二酸化炭素の削減につながります。地球環境のためにはマイカーではなく公共交通機関を使うことが「賢い選択」です。商品を選ぶ際にも「賢い選択」が出来ます。例えば、省エネタイプの家電製品は、年間の電気使用料の削減に繋がることもあり、そうした視点で選択しましょうということです。チラシやホームページを使って、具体的な取り組み事例を紹介する等、「賢い選択」、COOL CHOICEの取り組みを後押ししていきます。

その他、市では、毎年冬に環境交流会というイベントを実施しており、COOL CHOICEの取り組み紹介や、地元のラジオ局と連携して、ラジオを使って広く市民に呼びかけるなどの取り組みを実施しています。また、8月から、十勝バスと拓殖バスで、COOL CHOICEに関する車内放送を流し、ポスターを掲示します。

【委員】基本目標4のゴミの関連についてですが、市側から市民に対しての取り組み案が書かれているのですが、ゴミの分別の仕方を大きく見直すということはないのでしょうか。また、古紙や古新聞を集めている方が沢山いて、税金の無駄遣いにつながらないか気になってい

ます。無駄遣いにつながっているのであれば、そうした行為を制限する仕組みを少しでもこの部分に盛り込んだ方が良いのではないかと思います。

【事務局】 ゴミの関連については、同じ市民環境部の清掃事業課が担当しており、現在、一般廃棄物処理基本計画の策定作業を進めており、そのような意見があった事をお伝えします。

【委員】 現在プラスチックゴミの問題があります。ゴミのことは、社会情勢などによりこの先10年で大きく変わっていく可能性があると考えており、逐一見直していく必要があると思います。

【委員】 ペットボトルやプラスチックの処分について、これから全体的に変わっていくと思うので、そういう仕組みについて何か出来ることがあると思います。それはゴミの出し方という具体的な部分だけではなく、環境という方向からでも何かあるのではないかと思います。意見として申し上げておきます。

【委員】 自分達が実施している事で、誰でも出来る事を市民の皆さんと一緒に考えながら推進していくことが大切だと思っています。先ほど事務局から説明がありましたが、バスの車内放送や、環境交流会のラジオ放送など、努力されていると感じます。しかし、あともう一步、若い方々への働きかけが必要だと思っています。自分の子供たちが生きていく時代のために、何を選ぶことが環境を守ることに繋がるのかという意識を持ってもらうために、市として方向性を定めてアピールしていくことが大事だと思っています。環境都市推進課では、出前講座で学校に出向いていますが、子育てをしている方々に対しては、親子で楽しく過ごせるようなイベントが効果的であり、もう少し積極的に環境について発信すると良いと思います。

【事務局】 小さい子供のうちに教育することは、将来に繋がると認識しております。若い親世代にPRしていくことについて、非常に忙しい世代であり難しいとは思いますが、何か良い方法はないか考えたいと思います。

【委員】 ゴミの出し方について、周知を徹底するべきだと思います。私たち市民は、帯広市の分別方法に則って、ゴミを分別していくことがとても大事なことだと考えており、市民みんなが分別を徹底することが、飛散して問題となっているプラスチックゴミを防ぐ1つの方法であると思います。

3 閉会